

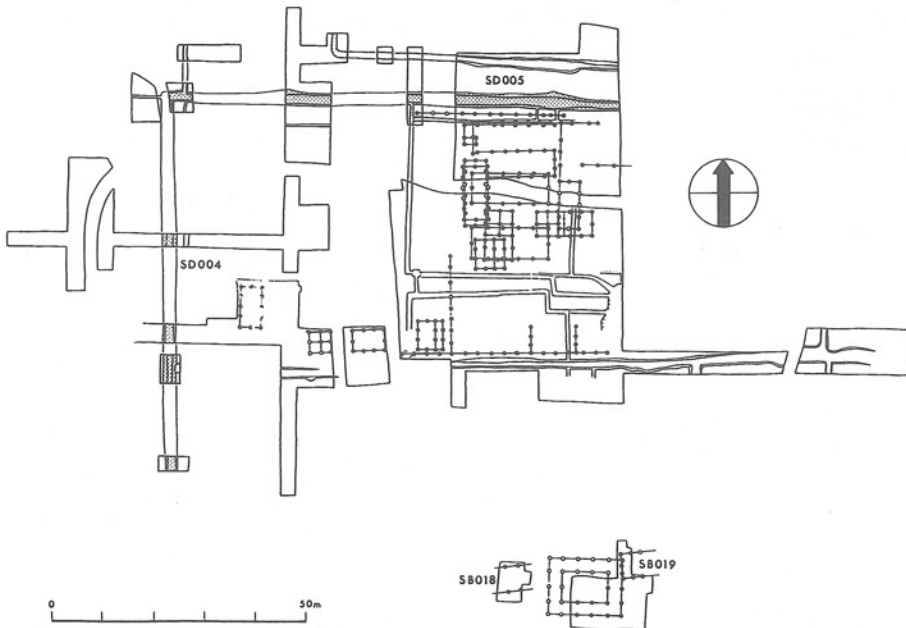
島根・出雲国庁跡(第二号)

- 1 所在地 島根県松江市大草町
- 2 調査期間 一九六八年(昭43)八月～一九七〇年一二月
- 3 発掘機関 松江市教育委員会
- 4 調査担当者 山本 清・坪井清足・町田 章ほか
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 七世紀末～九世紀
- 7 木簡の釈文・内容



(松江)

出雲国庁跡出土木簡については、これまで三点について釈文・写真などが公表されている。国府推定地ではそれまで例がなかった評制下の木簡を含み、国府ひいては律令国家の地方支配の成立過程をめぐる議論に重要な問題を提起してきた。一九九四年及び九八年にこれらの木簡の写真撮影・実測などを行ない釈読を再検討した結果、一部に訂正を要する箇所が見つかった。



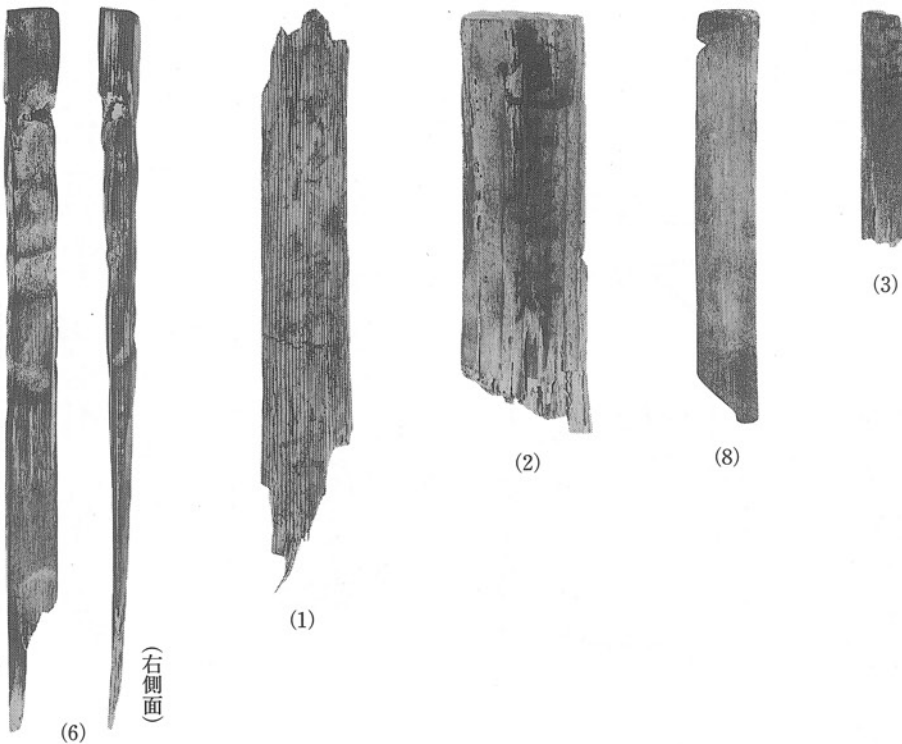
出雲国庁跡における木簡出土遺構(網かけ部分)
(『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』より一部加筆転載)

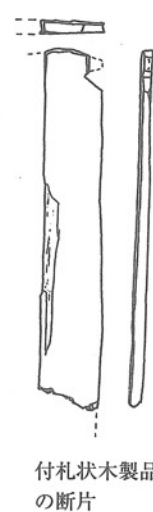
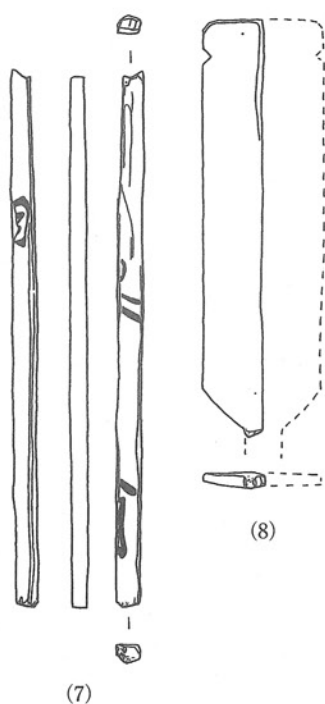
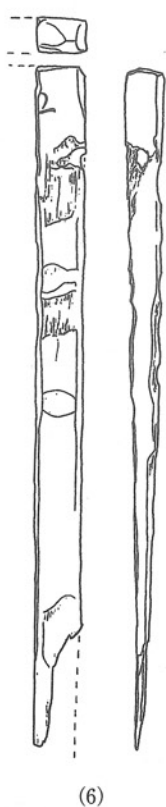
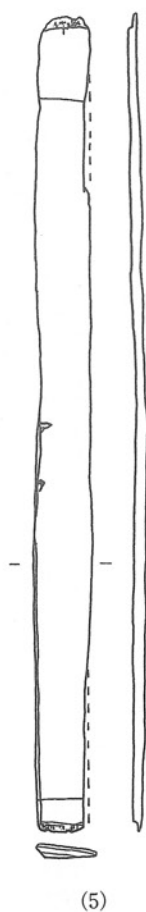
また、遺物整理過程で新たな木簡も発見されている。新出の木簡には釈読できるものは少ないが、地方官衙遺跡出土木簡ではごく例の少ない〇一五型式の木簡など重要な木簡が含まれている。なお、(3)には訂正箇所はないが、再検討結果を合わせて報告したい。

木簡出土遺構は、(1)が南北溝SD〇〇四、(2)(3)が東西溝SD〇〇五であるが、(4)~(10)については詳細は不明である。また、SD〇〇四・〇〇五も七世紀から九世紀まで一貫して利用されており、出土状況から年代の判定を行なうのは困難である。

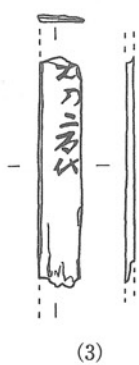
8 木簡の釈文・内容

(1)	大原評 □磯部 安□	(152)×23×3 081	11 (1)
(2)	「進上兵士財□□ ^{〔月万カ〕}	(114)×34×5 019	11 (2)
(3)	□マニ二百代	(62)×(13)×3 081	11 (3)
(4)	□ □	(105)×52×8 019	
(5)	□ □	217×16×4 081	
(6)	□ ^{〔中カ〕}	(191)×(13)×10 015	
(7)	□ □ ^{〔八月カ〕}	142×7×6 011	





付札状木製品
の断片



(8) 〔V〕□ (墨点)

(111)×(16)×4 661

(1)は柾目、上端・下端は欠損する。裏面にはハギトリ状ケズリが施されている。□磯部は全体で氏族名の可能性があるが、「磯」の上の文字は他の文字と若干筆が異なるようで、異筆とも考えられ断言できない。機能的には荷札木簡の他、安□を人名とみると、歴名部分を有する木簡の可能性もある。

(2)は柾目、上端は平面ケズリが施され、下端は欠損。表面にはハギトリ状ケズリが確認される。裏面は欠損。軍団から兵士を国府へ進上した文書木簡か、その際に作成された帳簿木簡であろう。また、「財」の左上方に圧痕状の線刻が認められる。

(3)は板目、表裏両面ともハギトリ状ケズリが確認され。上端・下端は欠損。「代」の下には文章は続かず、代制による田籍を示した木簡である。

(4)は柾目、上端には平面ケズリが行なわれており、下端は欠損。表面にはカットグラス状ケズリが施され、裏面にはケズリはない。

(5)は板目、上端・下端ともキリ・オリ技法によって切り離されているが、木簡本来のものか二次的なものかは不明。表面にはハギトリ状ケズリが確認でき、裏面も恐らくハギトリ状ケズリが施されていたと考えられる。上下に浅い切り込みがある。

(6)は板目、上端は平面ケズリ・側面ケズリ加工がなされている。

下端は欠損。表裏両面ともカットグラス状ケズリを確認できる。側面に穿孔があるが、焼けた痕跡は認められない。墨書は一文字めの右半分が残っており、ほぼ中央で縦に半裁されているものと考えられる。「中」の文字からすると、三等の考第がたてられる郡司・軍団少毅以上、史生、資人、国博士・医師、外散位に關係する考課木簡であった可能性が高い。

(7)は板目、上端は両側面からのキリによって、下端は右側面からのキリ・オリによって切断されている。これは二次的な加工によるものか。表裏両面にハギトリ状ケズリが確認できる。

(8)は板目、上端は側面ケズリが施され、側面にキリカキによる切り込みが認められる。表裏ともにハギトリ状ケズリがなされる。下端は斜めに削って幅を細めており、この部分は右側面からキリ・オリによって切断されているので、棒状になっていた可能性が高く、切り込みの性格については問題が残るが、題籤軸の可能性を考えておきたい。

この他、墨痕のない付札状木製品の断片一点がある。

9 関係文献

平石 充「出雲国庁跡出土木簡について」(島根県古代文化センター「古代文化研究」三一 一九九五年)

(平石 充〈島根県埋蔵文化財調査センター〉)